

インフルエンザ ウイルス

に感染した患者さんへ

【監修】東北大学加齢医学研究所 抗感染症薬開発研究部門 教授 渡辺 彰 先生

インフルエンザとは

高熱や全身症状が強く現れる病気

インフルエンザウイルスに感染すると、約1~3日の潜伏期間の後にインフルエンザを発症します。

主に、突然の38℃以上の「高熱」や、関節痛、全身倦怠感などの「全身症状」が現れます。やや遅れて、咳やのどの痛みなどの「呼吸器症状」も現れます。

小児では、発熱が“2回”みられる場合もあります

一般的に、インフルエンザ発症後は発熱がみられ、次第に改善していきますが、小児ではその数日後に再び発熱を起こす場合があります。

インフルエンザウイルスに感染すると…

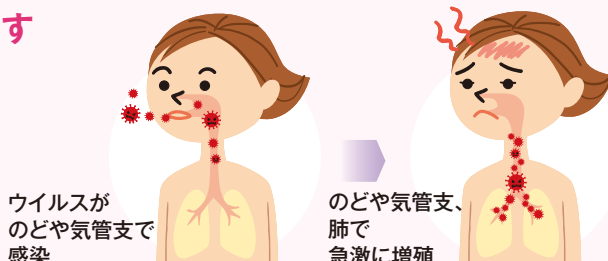


インフルエンザウイルスの感染経路、増殖スピード

ウイルスは、のどや気管支、肺で急激に増殖します

インフルエンザは主に、インフルエンザに感染した患者さんの咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる「インフルエンザウイルス」を吸い込むことによって感染します。体内に入ったウイルスは、のどや気管支で感染し、その後急激に増殖します。

ウイルスの増殖スピードは非常に速く、症状が急激に進行していくため、治療は早めに開始することが大切です。



インフルエンザの治療

睡眠や水分補給が基本。抗インフルエンザウイルス薬も効果的です

インフルエンザ治療の基本は、安静にして「睡眠」を十分にとること、そして、高熱による脱水症状を防ぐために「水分補給」をしっかり行うことです。ウイルスの増殖を抑える「抗インフルエンザウイルス薬」も効果的です。お薬により、発熱期間が1~2日短縮され、症状も徐々に改善していきます。

お薬による
治療の
ポイント



1 抗インフルエンザウイルス薬が処方されたら、早めに服用しましょう!

ウイルスの増殖を抑えるためにも、すぐに、お薬の服用を始めることが大切です。



2 熱が下がったあとは最低2日間(幼児は3日間)、インフルエンザ発症後からは5日間、自宅療養しましょう! (学校保健安全法施行規則より)

熱が下がっても、しばらくはウイルスが残っているため、他の人に感染させる可能性があります。

*主治医の先生の指示に従ってください。

インフルエンザの予防

外出後の手洗い・うがいは、インフルエンザ予防の基本

インフルエンザの予防の基本は、「手洗い・うがい」から。正しい手洗い・うがいの方法を身につけましょう。マスクは、他の人へウイルスをうつさないためにも有効です。

子どもにもわかりやすい手洗い・うがいの方法は、「インフル・ニュース」で紹介しています ●●●●



● PC用Webサイト
<http://www.influ-news.info>

● スマートフォン用Webサイト
<http://www.influ-news.info/s/>

インフル・ニュース 検索

● 携帯用Webサイト
<http://www.influ-news.info/m/>



第一三共株式会社